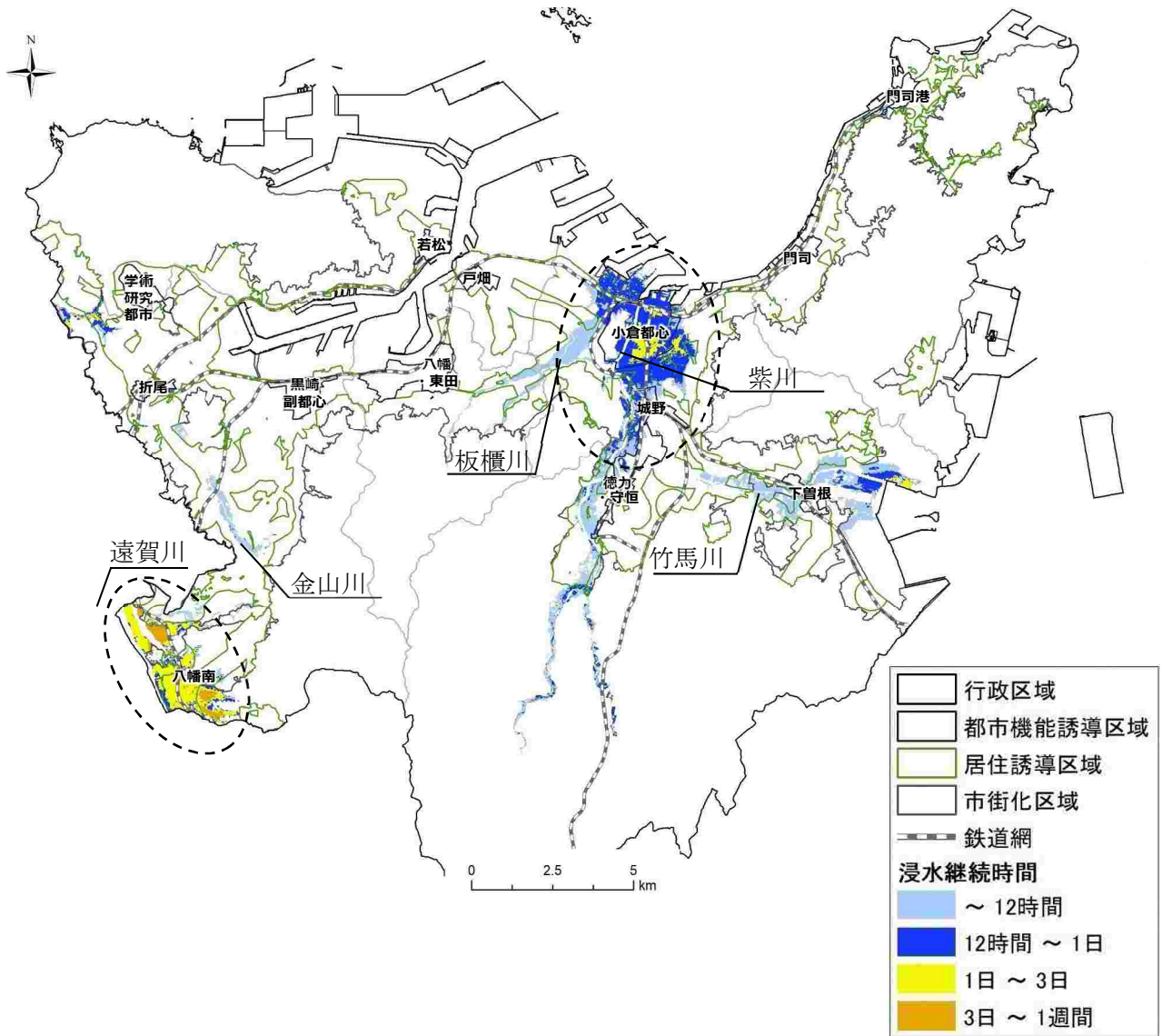


③ 浸水継続時間<想定最大規模降雨> (棟数・継続時間)

居住誘導区域内の建物で、想定最大規模降雨による浸水継続時間は、紫川流域の小倉北区で12時間～1日となっており、標高が低い小倉中心部から南側の三萩野周辺は、継続時間が最大3日となっています。また、遠賀川流域の八幡西区(八幡西・南部)でも最大で3日～1週間浸水が想定されています。

区分	居住誘導区域内			
	面積 ha	建物数		
		総数	1階	2階以上
～ 12時間	655.8	11,474	3,430	8,044
12時間～ 1日	511.8	7,258	1,883	5,375
1日～ 3日	225.3	3,482	913	2,569
3日～ 1週間	8.9	58	13	45
計	1,401.7	22,272	6,239	16,033

※上図に示す建物情報は、都市計画基礎調査の建物用途を用いており、住宅以外も含まれています。



④ 家屋倒壊等氾濫想定区域（棟数・氾濫流、河岸侵食）

〈氾濫流〉〈河岸侵食〉（棟数）

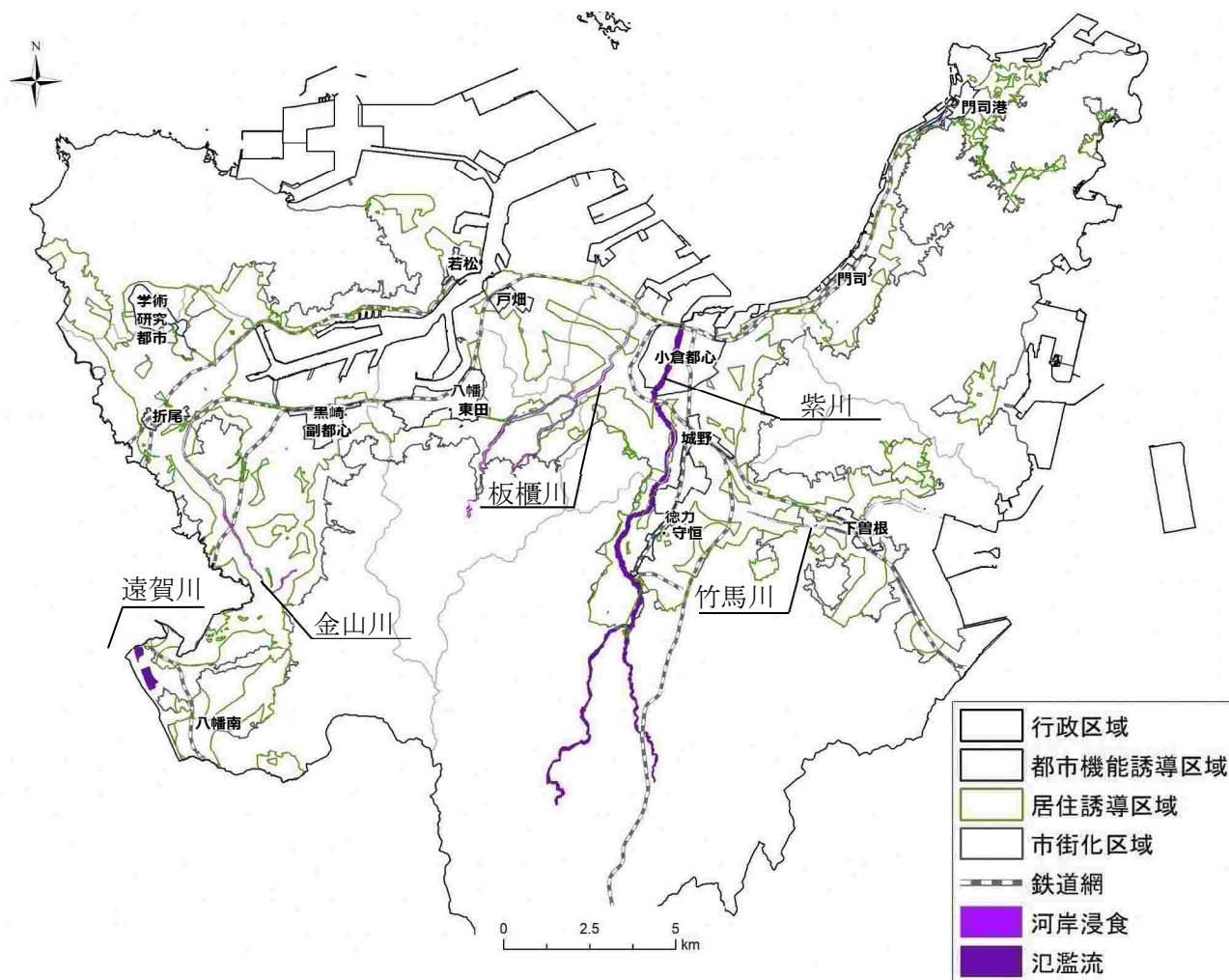
過去の豪雨災害では、堤防の決壊に伴う氾濫流により家屋が倒壊・流出したことや多数の孤立者の発生を踏まえ、本市でも想定される災害の認知が必要です。

家屋倒壊等氾濫想定区域の建物は約1,800棟で、うち木造は約300棟です。

氾濫流については木造建物の倒壊のおそれがあり、木造家屋については水平避難が求められます。また、河岸侵食は木造・非木造に関わらず倒壊のおそれがあるため、同様に水平避難が求められます。

区分	居住誘導区域内			
	面積 ha	建物数		
		総数	木造	木造以外
氾濫流	108.3	510	313	197
河岸侵食	199.3	1,789	—	—

※上図に示す建物情報は、都市計画基礎調査の建物用途を用いており、住宅以外も含まれています。



(3) 高潮

① 高潮浸水想定区域 (棟数・浸水区域及び浸水深)

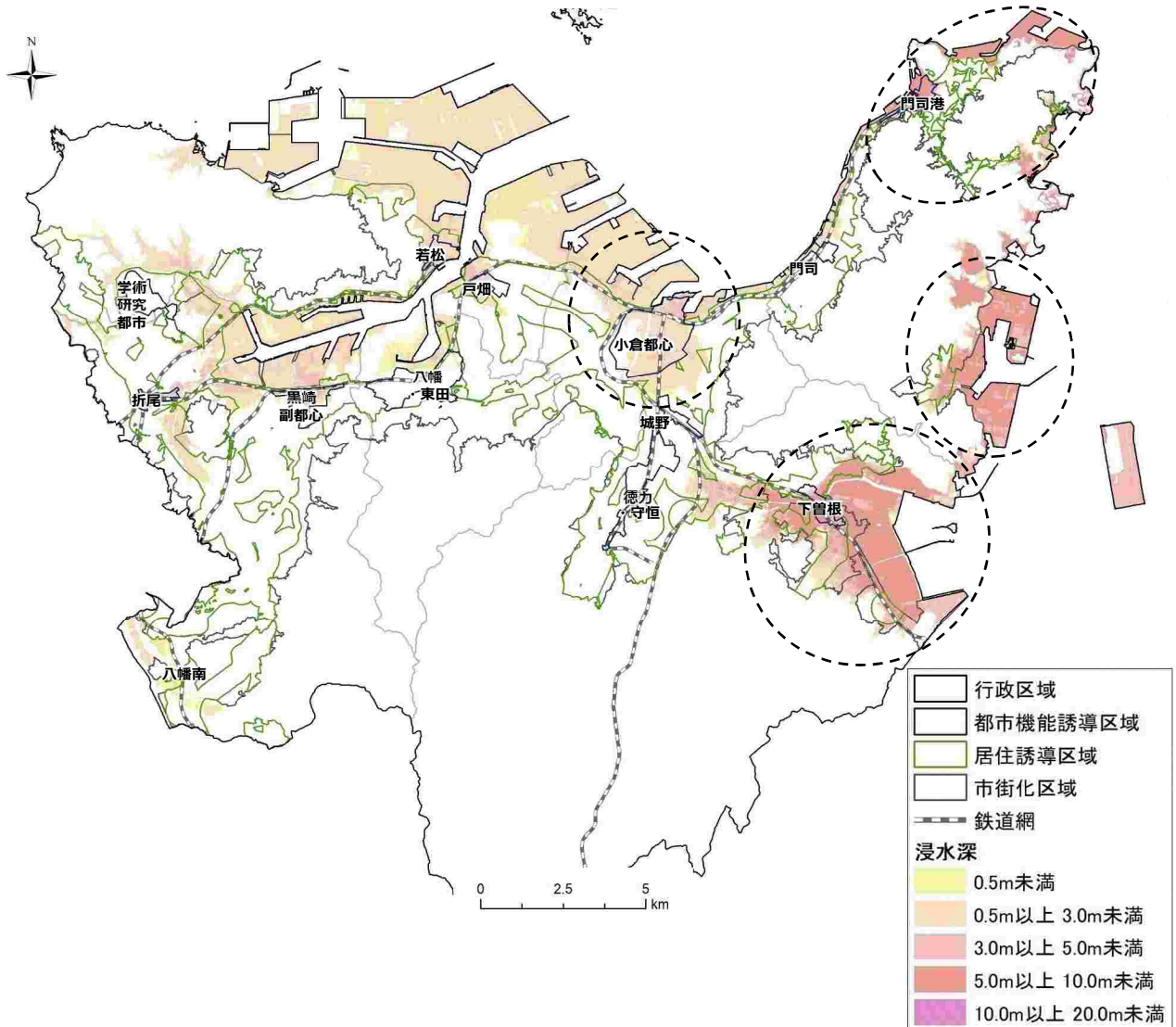
想定最大規模は、日本に接近した既往最大の台風である昭和9年の室戸台風(中心気圧900hPa)の来襲と大潮の満潮が重なった場合で、かつ台風経路も潮位偏差が最大となるよう最悪の事態を想定したものです。なお、室戸台風と同規模の中心気圧を持つ台風が来襲する確率は、500年から数千年に1回と想定されています。

高潮による浸水想定区域には、居住誘導区域内の建物が約38,000棟(約24%)存在しています。門司区(門司港エリア・新門司エリア)と小倉南区(小倉南・東部エリア)の海岸沿いでは浸水深5m以上が想定されており、小倉北区(小倉北エリア)などでも3m以上の浸水が想定されています。

浸水深0.5m以上の平屋の建物は約10,000棟、浸水深3.0m以上の2階以上の建物は約9,500棟存在しており、垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。

区分	居住誘導区域内			
	面積 ha	建物数		
		総数	1階	2階以上
0.5m未満	161.9	1,155	290	865
0.5m以上 3.0m未満	1,522.3	24,706	6,632	18,074
3.0m以上 5.0m未満	444.0	7,676	1,999	5,677
5.0m以上 10.0m未満	299.4	5,165	1,336	3,829
10.0m以上 20.0m未満	0.4	0	0	0
計	2,427.9	38,702	10,257	28,445

※上図に示す建物情報は、都市計画基礎調査の建物用途を用いており、住宅以外の施設も含まれています。

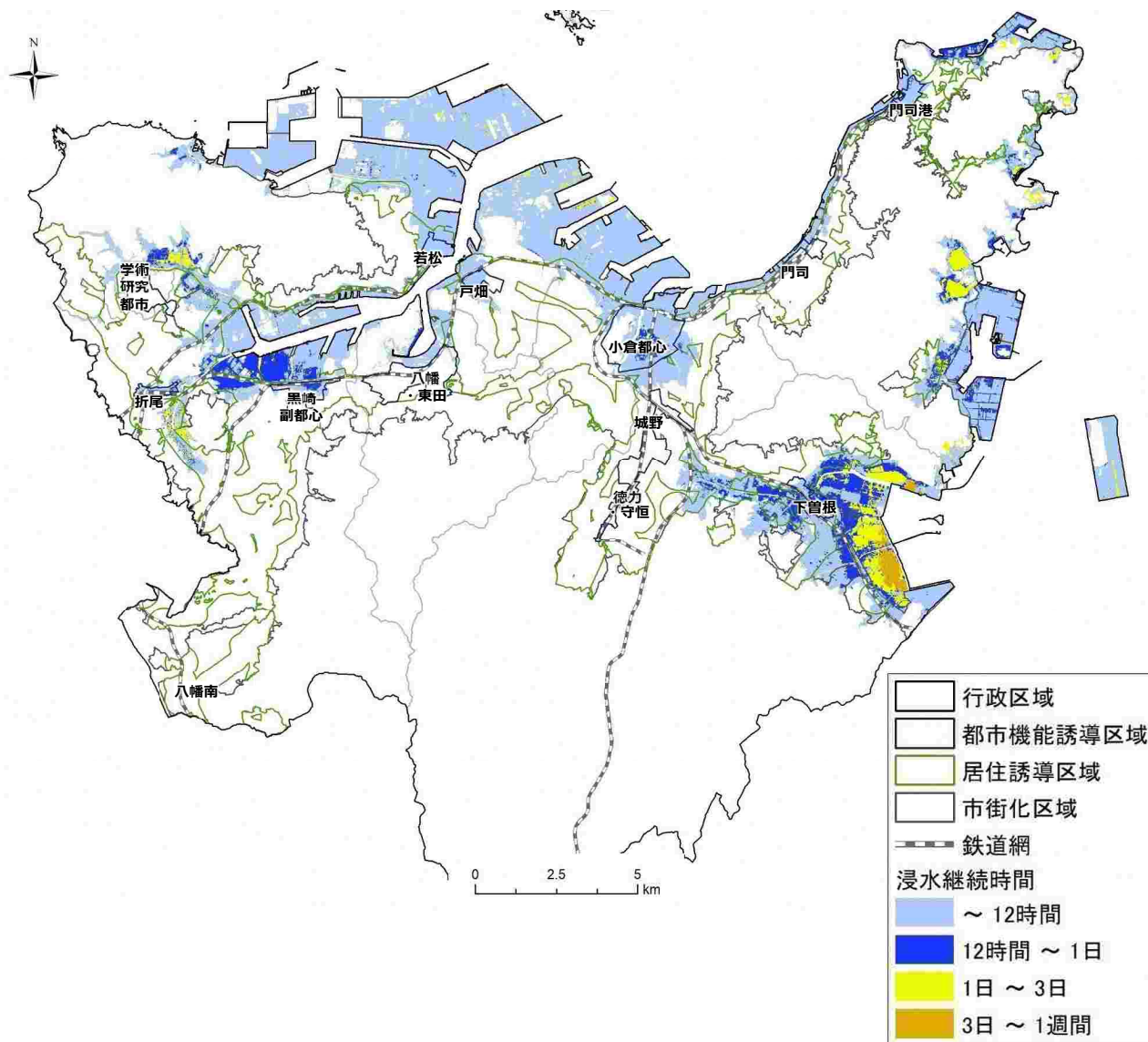


② 浸水継続時間 (棟数・継続時間)

小倉北区、小倉南区、八幡西区の居住誘導区域内で12時間～1日、八幡西区の一部地域で1～3日の浸水継続時間が想定されています。

区分	居住誘導区域内			
	面積 ha	建物数		
		総数	1階	2階以上
～ 12時間	1,919.0	34,780	9,092	25,688
12時間～1日	281.1	4,405	1,318	3,087
1日～3日	40.6	481	137	344
3日～1週間	0.0	0	0	0
計	2,240.7	39,666	10,547	29,119

※上図に示す建物情報は、都市計画基礎調査の建物用途を用いており、住宅以外の施設も含まれています。



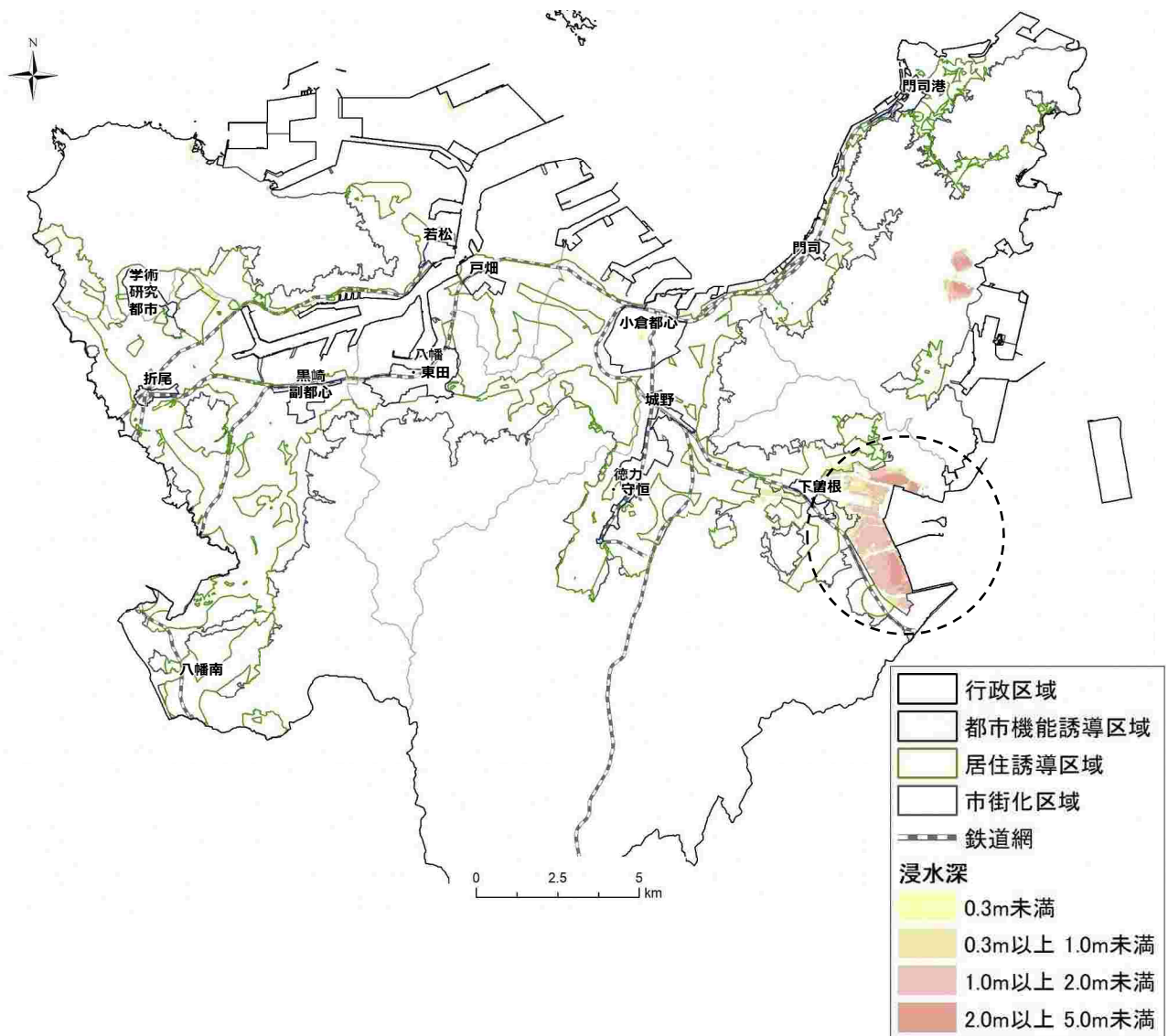
(4) 津波

① 津波浸水想定区域（棟数、浸水深）

南海トラフ地震では、門司区と小倉南区の沿岸部で浸水の被害が想定されています。浸水深0.3m以上の平屋の建物は約130棟、浸水深2.0m以上の2階以上の建物はありません。垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。

区分	居住誘導区域内			
	面積 ha	建物数		
		総数	1階	2階以上
0.3m未満	20.4	395	129	266
0.3m以上 1.0m未満	20.9	351	124	227
1.0m以上 2.0m未満	2.6	63	8	55
2.0m以上 5.0m未満	0.0	0	0	0
計	43.9	809	261	548

※上図に示す建物情報は、都市計画基礎調査の建物用途を用いており、住宅以外の施設も含まれています。

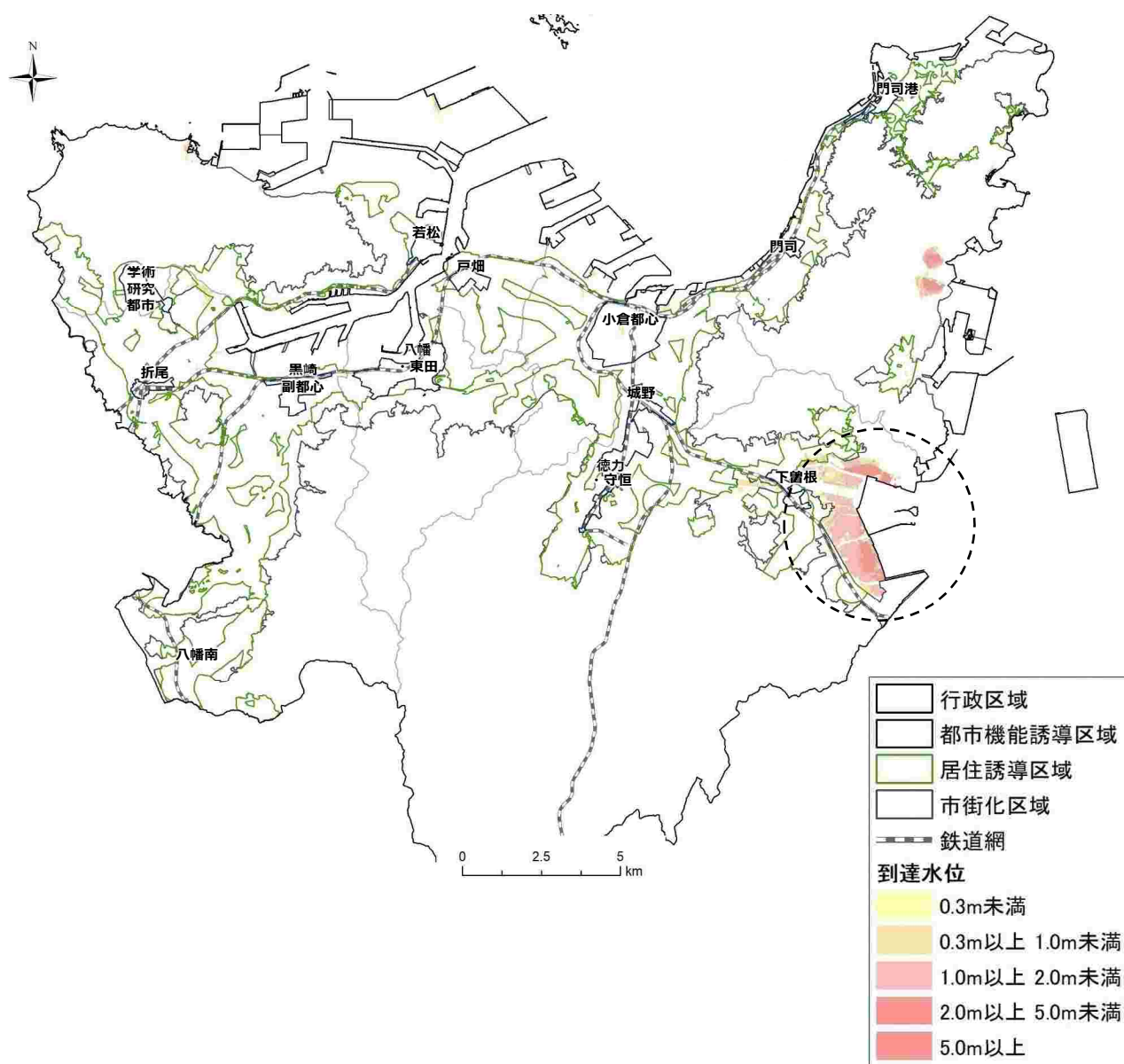


② 津波災害想定区域（棟数、到達水位）

小倉南区（下曾根付近）では、到達水位0.3m以上の平屋の建物は約200棟、到達水位2.0m以上の建物はありません。垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。

区分	居住誘導区域内			
	面積 ha	建物数		
		総数	1階	2階以上
0.3m未満	8.4	175	49	126
0.3m以上 1.0m未満	29.4	515	181	334
1.0m以上 2.0m未満	5.9	119	31	88
2.0m以上 5.0m未満	0.1	0	0	0
計	43.9	809	261	548

※上図に示す建物情報は、都市計画基礎調査の建物用途を用いており、住宅以外の施設も含まれています。



(5) 地震

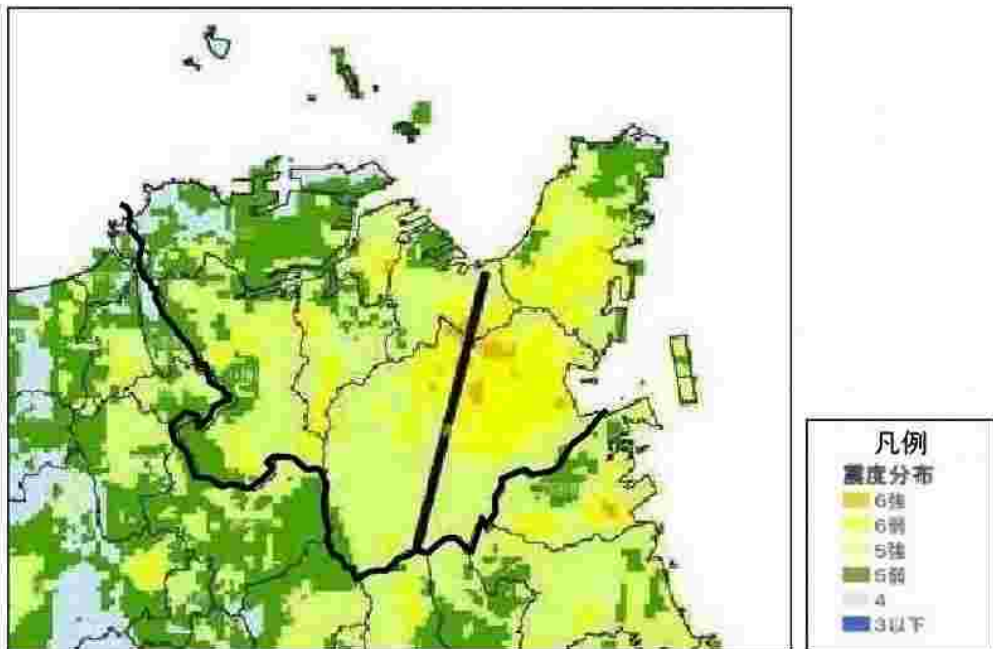
北九州市地域防災計画において、活断層による地震、プレート境界周辺で起こる地震、地下岩盤の活動による地震が想定されています。また、福岡県防災アセスメントでは、被害状況を以下のよう

【福岡県の地震に関する防災アセスメント調査報告書（H24年3月） 抜粋】

●想定地震

- 北九州市小倉北区から小倉南区付近にかけての断層の長さ約 17km のうち、震源断層の長さ 17km、震源断層の幅 8.5km（上端の深さ 2km、下端の深さ 10.5km）、地震の規模マグニチュード 6.9 を想定した。
- 想定した季節及び時刻は、最も出火率が高くなる冬の夕刻（午後 5 時～6 時）とした。風の条件を福岡市の冬季（12 月～2 月）の平均風速である約 3.2m/秒（気象庁：日本気候表より）よりも大きな風速を想定して 4 m/秒とした。

●震度分布



●被害想定結果

建物被害（棟）	建物被害総計		10,576
	全壊・大破	木造	5,606
		非木造	566
		計	6,172
	半壊・中破	木造	3,709
		非木造	695
計		4,404	

ライフライン等被害（箇所）	上下水	742
	下水道	319
	都市ガス管	122
	電柱・電話柱	80
	道路 ※	71
	鉄道 ※	160
	港湾係留施設(km)	66.3

火災 人的被害（人）	火災発生(件数)	35
	死者	429
	負傷者	3,780
	避難者数	21,380

※発生した場合の県全域被害の総計